

タウンハウス型

デザイナーズ住宅



相次ぎ登場、人気

設計にも 景観の 一体感 魅力

大津市追分町に今秋、装をれんがで覆い、まる「ティアラ・ガーデン」で南フランスの町のよう出入り口は、インターホ「ティセントコート」が庭を繋ぎあがた。タウンハウ「開錠式」保安対策も万生した。敷地面積約九千スは関西初の取り組み全。三階建ての各住宅に二百平方メートルで、これだけ大規模な住宅は、家庭エレベーターと住宅が集積している。外宅地は国内でも珍しい。広い屋上もあり、中身は

京滋で景観やデザインの一体感を売り物にする建て売り住宅が相次いで登場している。住宅が一つの町を形成する「タウンハウス」型住宅や外観のコンセプトを統一したデザイナーズ住宅など、住宅二戸だけで、町並みとしての総体的な魅力を掲げているのが特長。背景は、地価が手ごろになり、住宅に新たな付加価値を求める消費者が増えたことなどがある。 (社会報道部・経済 仲屋聡、高野英明)

町並みで家に付加価値

南仏

南仏の都市をイメージしたタウンハウス。共有スペースで住民の団らんが楽しめる (大津市追分町・ティアラ・ガーデン・ティセントコート)

ティアラ・ガーデン・ティセントコート

マンションと違って三十分三十五坪程度の土地が付いたため資産価値は高い。分譲価格は四千万円から千万円台とマンションと比べてやや高い。公開を始めてから六百組の申し込みが訪れるほどの人気で、事業主のアル・バ(大津市)の服飾勝彦社長は「一戸建てとマンションの欠点を補った斬新な、一つの町を賣うつもりでコミュニティの良さを知ってもらいたい」と期待を寄せる。一方、京都市営地下鉄北大路駅(北区)近くの住宅街にこのほど完成したのが、ゼロ・コボレ。約三十組が訪れ、同社は「北大路まちなか住宅」の一戸五千七千万円の「コロレ・マンション」だ。高価格にしては関心が高く、敷地面積約九百平方メートルと手応えを話す。吉村篤一氏、若林広幸氏ら八人の建築家を設計に起用。昨年七月から、滋賀県立大の松岡拓公雄助教授ら三人の調整役も交えて基本計画を議論した住宅八戸が並ぶ、三戸た。素材や色、屋根の形、



京町家

京都の建築家が一戸一戸を設計した新しい町家風住宅が軒を並べる (京都市北区・北大路まちなか住宅・コロレ・マンション)

同隣との連続性などを最低限のルールに定め、建築家が一軒ずつ設計を担当した。同社は「デザイナーズ住宅は、それ一軒だけ見れば良しでも、町並みと調和していないことが多く、建築家や住宅業者、行政などに対して、新しい手法を提案したかった」と話す。

中心市街地にある住宅地の価格は、いまやバブル期の十分の一以下にまで下落した。少子化による人口減少も間近に控えて、住宅を「どんどん建ててどんどん売る」時代でなくなってきたのは確かだ。そんななかで、町並みの統一感やコミュニティの作りやすさといった要素が、住宅の新たな付加価値として浮上りつつある。

くらしの 経済